

時代の変化に対応した 社会教育の在り方

—第30期青森県社会教育委員の会議 調査研究報告書—

平成24年10月
青森県社会教育委員の会議

は じ め に

2年前の秋、今期の社会教育委員の最初の会議で、「時代の変化に対応した社会教育の在り方」をテーマに、調査研究が進められることが決まりました。変化の激しい時代の中で、今日的課題や地域課題にどのように取り組んでいくのか、そのテーマの大きさと重要性から、実に充実した話し合いが重ねられました。そして、これからの社会教育の在り方を考える上で、地域課題に取り組む団体や活動を、これまでの「社会教育」にとらわれずに、広く見ていく必要性が確認されました。

そこで、委員が手分けをして、県内各地の多くの団体や施設を訪問したのですが、その多くがNPO(特定非営利活動法人)の方々でした。社会教育、とりわけ社会教育行政は、NPOの皆さんとはこれまであまり深く関わってこなかったというのが現実でしょう。しかし近年、国が「新しい公共」を提唱し、多くの社会教育関連施設の運営に「指定管理者制度」が取り入れられる傾向が、加速度的に強まっています。そして多くの市町村で、社会教育を取り巻く環境は大きく変わり、これまでの範囲に止まっていられない状況になりつつあります。ならば、私たち社会教育委員もこの現状と課題を直視し、どうしたらいいのかを考え、何らかの提案を試みていく必要がある、というのが今期の使命であったと言えます。

今期の調査研究では、これまで社会教育行政と深い関わりがあるとは言い難い、多くの団体や施設の、“社会教育そのものに見えるすばらしい活動”をつぶさに見聞させていただきました。(私ごとですが)公民館を中心とした社会教育活動に首までつかうような半生を過ごしてきた私は、訪問するたびに大きなショックと混乱を感じながら、それでもこれでいいのだ…と自分を励ます日々でした。そして、私たち社会教育関係者が深く関わる地域社会の環境は、急激に変わりつつあり、それを私たちは真剣に、前向きに捉えるべきなのだと感じました。社会教育関係者の意識を変えていかないと、地域で必要な学びのニーズから離れ、社会の流れから取り残されかねない…、そのような危機感すら覚えた次第です。

今期の私たちが取り組んだテーマは、ある意味で、これまでの取組とはかなり違ったものになったかもしれません。今回の私たちの報告書を、皆様がどのようにお読みになるか、非常に楽しみです。そして、このような時代だからこそ、社会教育の原点ともいえるべき、戦後の混乱の中で雨後の筍のように公民館が全国津々浦々までできていった時代について、住民がどのように自分たちを奮い立たせ、地域づくりを進めていったのか、そのことに改めて触れてみたいと思った次第です。

最後に、新しい時代の動きを体感させていただいた数多くの団体の皆様、真剣に取り組んできた委員の皆様、調査研究を支えてくれた事務局の皆様、感謝申し上げます。そして、本報告書が、本県の社会教育関係者並びに地域を良くしようと活動されている多くの方々にとって、今後の活動を考える上での参考になることを切に願う次第です。

平成24年10月

第30期青森県社会教育委員の会議
議長 小笠原 睦 男

目 次

第1章 調査研究テーマについて

- 1 テーマ設定の趣旨…………… 1
- 2 調査研究の方法と方向性…………… 2

第2章 県内の今日的課題と社会教育の現状

- 1 青森県の今日的課題…………… 4
- 2 地域を取り巻く現状と課題…………… 7
- 3 社会教育の現状と課題…………… 9

第3章 時代の変化に対応した社会教育の在り方

- 1 社会教育と今日的課題・地域課題
 - (1) 社会教育が果たす役割…………… 14
 - (2) 地域の問題・ニーズの分析…………… 14
 - (3) 課題の気づきと焦点化…………… 15
 - (4) 地域資源の現状把握…………… 15
- 2 今日の課題・地域課題の解決に向けて
 - (1) 人材《ヒト》…………… 16
 - ア. ミッションとパッション
 - イ. 地域の指導者・活動者の育成
 - ウ. シニア世代を地域活動へ
 - エ. 後継者の育成 — 若者・現役世代の取り込み —
 - オ. 関係者の資質向上 — 企画力・調整力 —
 - (2) 施設・団体の組織《モノ・ハコ》…………… 19
 - ア. 公共施設の役割
 - イ. 地域コミュニティの中核 — 公民館と学校 —
 - ウ. 新しい公共 — 指定管理者制度 —
 - エ. 市民団体・NPO等の支援
 - オ. 研究機関・民間企業の活用
 - コラム「男女共同参画の視点からみたワーク・ライフ・バランス」…………… 23
 - (3) 事業・活動《コト》…………… 25
 - ア. 社会性・公共性を意識した地域資源の発掘
 - イ. 連携による相乗効果
 - ウ. コミュニティ・ビジネス
 - エ. 情報収集力と情報発信力
 - オ. マネジメント手法の導入
 - コラム「対象に応じた参加者の募り方・取り込み方、事業の振り返り方」…………… 28

3 時代の変化に対応した社会教育の在り方	
(1) 新しく柔軟な発想と手法を取り込む社会教育	29
(2) ヒト・モノ・ハコをつなげる社会教育	30
(3) 専門性・目的性をもった団体・関係機関をつなげる社会教育	31
(4) ヒト・モノ・ハコを支援し基盤をつくる社会教育	31
(5) コトを実施し、支援する社会教育	34
(6) 社会教育関係者への期待	35

第4章 今日的課題・地域課題の取組事例

1 地域の現在をつくる ー地域づくり・地域連帯ー	
① 八戸市立白銀公民館サポーター「男の料理」【八戸市】	38
② NPO法人三戸地域資源発掘会議おっほの会【三戸町】	40
③ OH!! 鱧元気隊／プロジェクトおおわに事業共同組合【大鱧町】	42
④ 黒石市立上十川公民館【黒石市】	44
⑤ 弘前市早稲田中央町会【弘前市】	46
2 地域の未来をつくる ー子ども・青少年育成ー	
⑥ 下北ふるさと活性協議会／NPO法人斗南どんどこ健康村【むつ市】	48
⑦ 三戸食農推進協議会「さんのへ農業小学校」【三戸町】	50
⑧ 青森県立三沢航空科学館／NPO法人テイクオフみさわ【三沢市】	52
⑨ 十和田NPO子どもセンター・ハピたの【十和田市】	54
3 地域社会の基盤となる理念 ー共生と持続可能な社会の創造ー	
⑩ 青森県男女共同参画センター・青森県子ども家庭支援センター アピオあおもり【青森市】	56
⑪ みんなの応援隊ネットワーク【青森市】	58
⑫ 八戸国際交流協会【八戸市】	60
⑬ 十和田市東公民館【十和田市】	62
⑭ NPO法人循環型社会創造ネットワーク（クロス）【八戸市】	64
4 多様化する課題に多角的に対応 ー住民生活・住民意識の向上ー	
⑮ 津軽鉄道サポーターズクラブ【五所川原市】	66
⑯ 町づくり応援隊 いいべ!ふかうら【深浦町】	68
⑰ ねぶたの家ワ・ラッセ【青森市】	70
⑱ 八戸ポータルミュージアムはっち【八戸市】	72

巻末資料

資料1 第30期青森県社会教育委員の会議	74
資料2 青森県社会教育委員の足跡	76
資料3 第30期青森県社会教育委員名簿	77

